

CAMPUS HEALTH

2023.8

60 (2)

特集：忘れてはいけない感染症



Japan University Health Association

目 次

巻頭言

| | | |
|-----|---------|---|
| 巻頭言 | 木 内 喜 孝 | 1 |
|-----|---------|---|

特集 《忘れてはいけない感染症》

| | | |
|---|-----------|----|
| 結核低蔓延国となった日本の大学における結核対策 | 潤 間 励 子 | 2 |
| COVID-19 流行下におけるインフルエンザ等の呼吸器疾患対策 | 立 石 晶 子ほか | 7 |
| 大学キャンパスの「ワクチンで予防できる感染症」管理 — 一日米比較から見える日本の問題点とその対策の提言 — | 横 山 裕 一 | 13 |
| 忘れてはいけない蚊媒介感染症 — デング熱 — | 中 川 克 | 20 |

原著論文

| | | |
|--|--------------|-----|
| コロナ禍における大学生の睡眠状況と朝食摂取状況 | 笹 原 妃 佐 子 ほか | 26 |
| 非医療系学生男女における子宮頸癌の予防知識 | 池 上 喜 久 夫 ほか | 33 |
| 発達障害に関するメンタルヘルスリテラシーへの介入 — 大学教員向け動画教材の開発と評価 — | 水 野 雅 之 ほか | 40 |
| 若年健常者ではナトリウム過剰摂取とカリウム摂取不足は糸球体過剰濾過に続き 血圧上昇と腎機能低下をきたす — 大学生を対象とした在学3年間の追跡調査 | 森 俊 明 ほか | 46 |
| COVID-19 のパンデミックは大学生にどのような影響を与えたか： 大学における休学・退学・留年学生に関する調査の結果から | 布 施 泰 子 ほか | 53 |
| 大学生の新型コロナワクチン接種に関する実態調査 | 工 藤 欣 邦 ほか | 59 |
| 中長期的な心理支援を必要とする大学生の心理的特徴：CCAPS-Japanese の分析結果から | 堀 田 亮 ほか | 66 |
| 留年経験学生のメンタルヘルスの特徴 — 専攻，修業期間，性別，学年別3年間の比較 — | 山 田 裕 子 ほか | 72 |
| 大学生の新型コロナワクチンの接種行動への船舶実習と職域接種の影響の検討 | 福 田 直 子 ほか | 79 |
| ピア・サポーターによる大学生のためのゲートキーパー養成プログラムの開発 | 茅 野 理 恵 ほか | 85 |
| ポストベンション面接記録の分析 — 計量テキスト分析による内容の検討 — | 山 崎 勇 ほか | 92 |
| 大学生の定期健康診断のデータから推測された 新型コロナワクチン接種後急性期副反応の危険因子の検討 | 佐 藤 弘 恵 ほか | 100 |
| コロナ禍の大学生のBMIとメンタルヘルスとの関連 | 足 立 由 美 ほか | 107 |
| 学生相談機関が行う心理カウンセリングの効果評価 — 精神的健康度のスクリーニング検査による効果検証 — | 田 沢 晶 子 ほか | 114 |

信州大学 10年間の大学入学時「ASD・ADHD 困り感」「希死念慮」における学部による違い
高橋 徹ほか…………… 121

大学新生におけるUPI得点およびASD/ADHD困り感が
学業成績を介して休・退学に及ぼす影響
嶺 哲也ほか…………… 127

症例報告

就職活動の挫折を契機に来所した大学生
—介入手法としての「休学」「問題の単純化」「森田療法」—
高橋 徹ほか…………… 134

報告

米国大学保健管理協会（American College Health Association）年次学術集会（ACHA2022）の
参加報告－国際連携委員会の活動を中心に－
山本 眞由美ほか…………… 141

機関誌編集委員会からのお知らせ…………… 147

あとがき…………… 148

巻頭言

東北大学保健管理センター長 木内喜孝

今年の5月8日から新型コロナウイルス感染症は感染症法での位置づけが2類相当から5類に移行しました。まだまだ脅威は継続していますが、大学の保健管理を担当しているものとしては安堵しているのも正直な気持ちです。2020年2月に感染症の大家が学内講演で、今後数年以上に渡って感染の波が押し寄せてきて、それに対応しないといけない日々が続くであろうと断言していましたが、まさにその通りになり、この大家の予測はこの感染症に関しては見事に当たっていました。これは学問（情報解析の精度が高くなった）の進歩の賜物と感心しています。

2009年の新型インフルエンザのパンデミックも大学保健管理センターで経験された読者の方も多いとは思いますが。これと比較して今回の新型コロナウイルス感染症は長期にわたってその影響が続いたこともあります。あらゆる対策の面で業務のDX化が必要となり、皆様もいやおうなく対応されたことと思います。健康診断のweb予約、web問診、業務におけるペーパーレス化、またweb感染者報告など、ある面かなり業務のDX化について皆様の背中を押してくれたのではないかと予想しています。かくいう私も予算のない中、DX化に対応するためにプログラミングをこの年で真面目に学習することを余儀なくされたものの、ここで得られた知識はその他のあらゆる面でも役に立つことになりました。不幸中の幸いといったところでしょうか。

このDX化の流れは暫く続きそうです。挙げればきりがなさそうですが、学生サービスの面では、既に一部の大学ではコンビニからの大学で発行する証明書の取得が始まっていますし、マイナポータルで学生が健康診断結果を閲覧できるようになるのも数年以内と聞いております。また社会全体としても、今回のパンデミックを機に情報の有効利用の大切さに気付いたのではないのでしょうか。例えば携帯電話キャリアや全地球測位システム（GPS）などのビッグデータを解析して感染対策に応用するなど、役に立つことが沢山ありました。このような社会全体としての情報利用のポジティブな思考は、社会でのDX化及び個人情報の有効利用に関する理解を深化させて、新たな展開が出てくるのではないかと期待しています。例えば医療の分野では、健康診断にゲノム情報の取得を組み込み、ハイリスクの疾患を特定することで、健診結果の精度が向上すると予想しています。その結果、特定された疾患の精査や治療を促し、また特に必要とする生活習慣指導を実現することができます。国民のゲノム情報の取得・管理・利用についてはまだまだ議論の余地が多いとは思いますが、このような利用も追い風を受けて進むのではないかと予想しています。そうなるとう全学生を対象に同じ健康診断をするという現時点での考え方も大きく揺らぐ時代が来るような気がします。

新型コロナウイルス感染症との戦いによって、気が付けばいろいろな面で私たちが成長しているのではないかと明るい気分になるのは、なにも繁華街でお酒を飲めるようになった利那的な気分高揚だけではないと感じる今日この頃であります。